

第4回作物根コロキウムに参加して

北海道大学農学部 岩間和人

1993年10月19日に、名古屋大学農学部において、日本作物学会秋期講演会の小集会として、東京大学農学部の阿部淳氏の司会で、第4回作物根コロキウムが開催された。講演者は、農林水産省野菜・茶業試験場久留米支場枕崎研究室の山下正隆氏で、「茶樹の根群に関する栽培学的研究」についてお話いただいた。山下氏は、すでに20年近くも茶樹の研究にたずさわってこられた方で、私が大学院の頃にすでに日作紀などに茶樹の根についての論文を發表されていた。今回の講演は、山下氏のこれまでに行なってこられた研究の成果をわかりやすくまとめられたものであり、2時間ほどの短時間に、茶樹の根についての一冊の本を読んだ気がした。

その内容は、まず茶樹の植物学的な分類から始まり、日本における茶樹の栽培状況へと移っていった。その過程で、根の研究が茶樹の栽培方法の改良のために必要である理由を理解できた。その後、いよいよ本田医の茶樹の根の話になり、土壌中における根の分布、新根の発生および根の活力の周年的な変化と云った、茶樹の根の基礎的な研究成果を踏まえて、実際栽培における収穫前の遮光、収穫時の摘葉、その後の大量の施肥が、根の生長と活力に及ぼす影響を明らかにされた。最後に、これらの研究成果に基づいて、茶樹栽培における断根処理手法の確立についてまとめられた。

参加者は残念ながら10名にも満たない小人数であったが、美しいスライドを使ったわかりやすい講演であり、また疑問点を自由に質問することができ、私のみでなく参加者一同が大変満足できたものと思う。蛇足になるが、講演後、山下氏の慰労をかねて、参加者の数名とともに飲みにでかけた。旧友に久しぶりに再会したかのように話しがはずみ、とうとう最終の地下鉄にも乗り遅れてしまったが、40才を過ぎて新たに親友を得た気がした。